

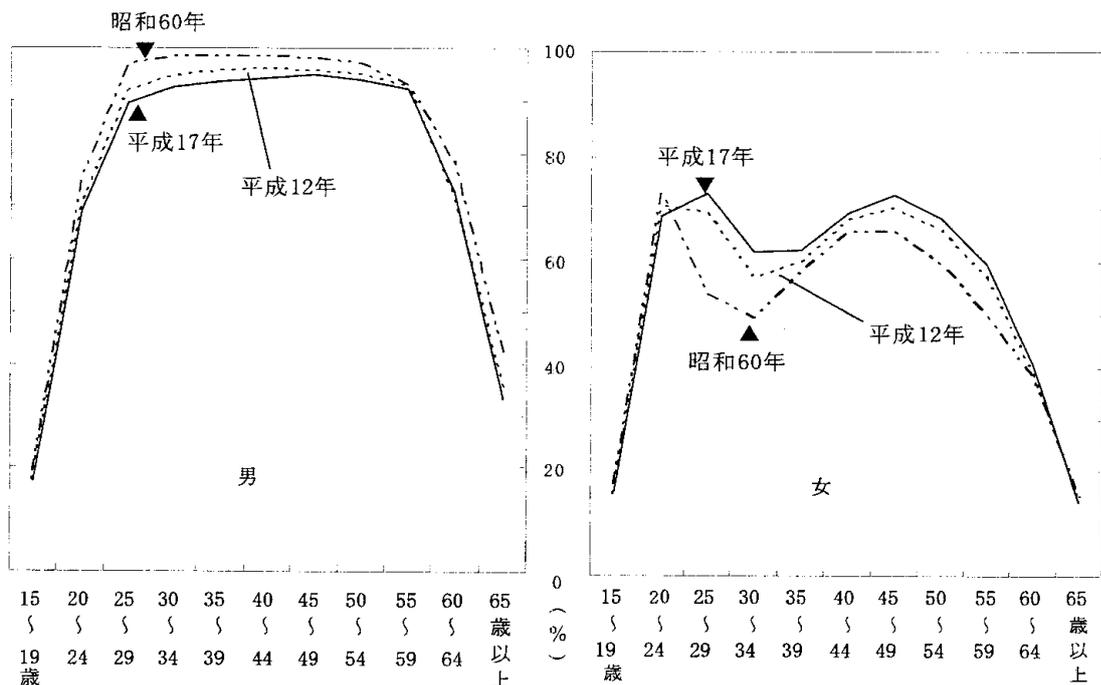
男女別労働力率を年齢階級別にみると、男性は30～59歳の各年齢階級で90%以上と高くなっている。また、女性は25～29歳と45～49歳を頂点とし、30～34歳を谷とするM字カーブとなっている。

女性の年齢階級別労働力率の推移をみると、20～24歳は平成7年以降低下しているのに対し、25～59歳の各年齢階級は平成2年以降上昇傾向となっている。M字カーブの谷となっている30～34歳は、平成12年～17年は4.9ポイント上昇と、他の年齢階級よりも大きく上昇し、M字カーブの緩和が進行している。(表2-2, 図2-1)

表2-2 年齢(5歳階級), 男女別労働力率の推移 - 全国(昭和45年～平成17年) (%)

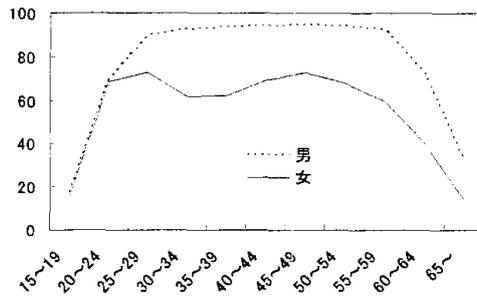
男女, 年次	総数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65歳以上
男												
昭和45年	84.3	36.5	83.7	98.2	98.6	98.5	98.3	98.1	97.4	94.2	85.8	54.3
50年	83.4	23.3	79.1	97.8	98.8	98.7	98.4	98.1	97.5	94.7	85.4	49.7
55年	82.1	20.3	74.7	97.6	98.6	98.7	98.4	98.0	97.3	94.0	81.5	46.0
60年	80.4	19.2	74.7	97.0	98.2	98.4	98.4	98.0	97.1	93.1	78.3	41.6
平成2年	78.7	19.9	75.4	96.7	98.1	98.1	98.1	97.9	97.1	94.0	76.1	39.4
7年	78.8	18.8	75.8	95.9	97.5	97.9	97.8	97.5	97.0	94.8	78.9	41.9
12年	74.8	17.4	70.2	92.1	94.5	95.5	95.9	95.5	95.0	92.6	71.6	35.2
17年	72.2	17.3	69.3	89.7	92.5	93.6	94.4	94.9	94.0	92.4	73.0	33.1
女												
昭和45年	50.8	35.7	70.8	44.9	47.2	56.2	63.5	64.6	60.8	53.7	43.2	19.7
50年	46.1	22.6	66.8	43.5	43.2	52.8	59.7	61.9	58.6	50.9	39.2	15.8
55年	46.9	18.8	71.1	49.4	46.5	55.5	61.8	62.3	58.7	50.7	38.8	16.1
60年	47.7	17.4	73.3	54.1	49.2	57.9	65.8	65.9	59.8	49.9	37.9	15.2
平成2年	48.4	17.4	75.5	61.2	50.7	59.4	66.7	68.3	63.0	51.5	37.4	14.9
7年	49.1	15.6	74.2	66.3	53.3	59.3	67.4	69.2	65.1	55.8	38.8	15.7
12年	48.2	15.4	70.5	69.6	57.0	60.0	68.2	70.3	66.2	57.1	38.6	14.4
17年	47.5	16.0	68.6	73.0	61.9	62.4	69.4	72.8	68.3	59.6	40.6	14.2

図2-1 男女, 年齢(5歳階級)別労働力率 - 全国(昭和60年, 平成12年, 17年)

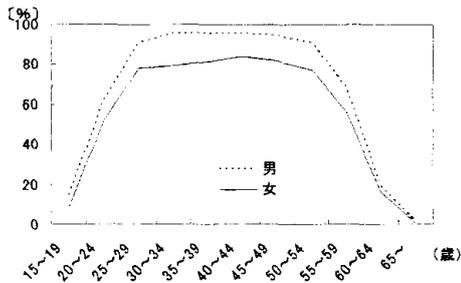


主要先進国の男女別年齢階級別労働力率をみると、我が国のように女性がM字カーブを示す国はみられない。(図2-2)

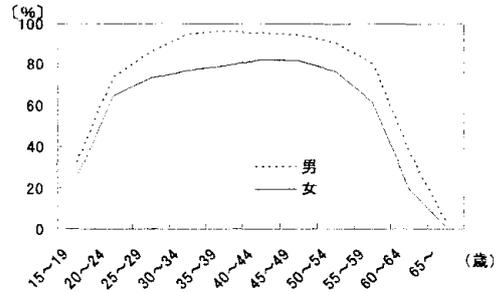
図2-2 主要先進国の年齢(5歳階級)、男女別労働力率
日本(2005年)



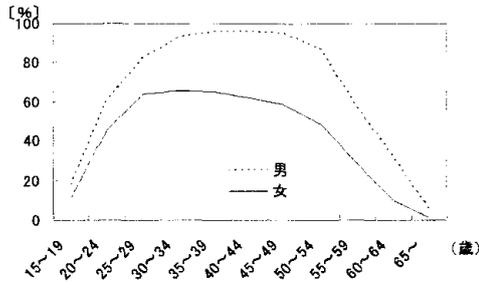
フランス(2004年)



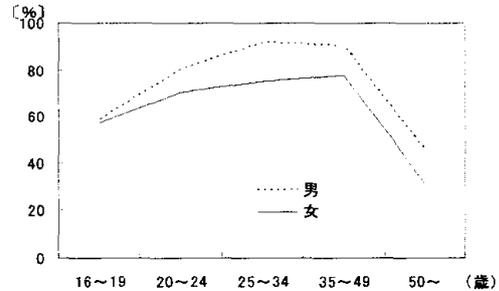
ドイツ(2004年)



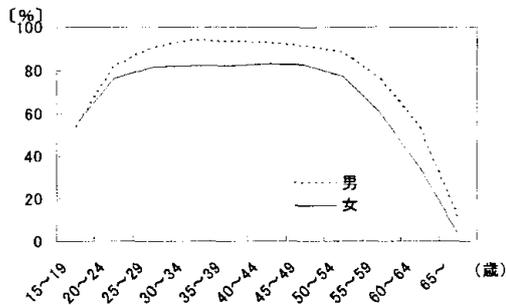
イタリア(2003年)



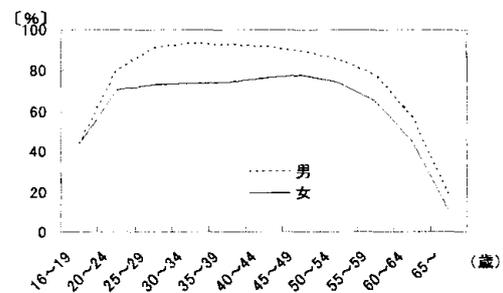
イギリス(2004年)



カナダ(2004年) 1)



アメリカ合衆国(2004年) 1)



資料：ILO, *Yearbook of Labour Statistics* 2003年版, 2004年版による。ただし、日本は国勢調査の結果による。

1) 軍人を除く。

2 65歳以上の雇用者数が増加

～我が国の65歳以上男性の労働力率は主要先進国と比べ特に高い～

15歳以上就業者数(6151万人)を従業上の地位別にみると、雇用者(役員を含む。)が5146万人(15歳以上就業者数の83.7%)、自営業主(家庭内職者を含む。)が691万人(同11.2%)、家族従業者が313万人(同5.1%)で、平成12年と比べると、雇用者、自営業主、家族従業者はそれぞれ1.6%、3.8%、10.7%の減少となっている。

従業上の地位別15歳以上就業者数の推移をみると、雇用者は平成17年に調査開始以来初の減少となっている。自営業主は昭和60年以降減少が続いている。(表2-3)

表2-3 従業上の地位，男女別15歳以上就業者数の推移 - 全国(昭和45年～平成17年)

男女，年次	就業者数 (千人)				割合 (%)			
	総数 1)	雇用者 2)	自営業主 3)	家族 従業者	総数 1)	雇用者 2)	自営業 主 3)	家族 従業者
総数								
昭和 45年	52,593	33,764	10,248	8,577	100.0	64.2	19.5	16.3
50	53,141	36,718	9,414	6,945	100.0	69.1	17.7	13.1
55	55,811	39,764	9,543	6,495	100.0	71.2	17.1	11.6
60	58,357	43,990	8,970	5,393	100.0	75.4	15.4	9.2
平成 2年	61,682	48,607	8,305	4,764	100.0	78.8	13.5	7.7
7	64,142	52,076	7,815	4,243	100.0	81.2	12.2	6.6
12	62,978	52,281	7,186	3,507	100.0	83.0	11.4	5.6
17	61,513	51,463	6,914	3,132	100.0	83.7	11.2	5.1
男								
昭和 45年	31,983	22,802	7,366	1,813	100.0	71.3	23.0	5.7
50	33,415	24,942	7,048	1,409	100.0	74.6	21.1	4.2
55	34,647	26,257	7,104	1,284	100.0	75.8	20.5	3.7
60	35,679	28,059	6,647	972	100.0	78.6	18.6	2.7
平成 2年	37,245	30,189	6,180	874	100.0	81.1	16.6	2.3
7	38,529	31,728	6,012	786	100.0	82.3	15.6	2.0
12	37,249	31,090	5,484	673	100.0	83.5	14.7	1.8
17	35,723	29,845	5,268	609	100.0	83.5	14.7	1.7
女								
昭和 45年	20,609	10,962	2,882	6,763	100.0	53.2	14.0	32.8
50	19,726	11,776	2,366	5,536	100.0	59.7	12.0	28.1
55	21,164	13,507	2,439	5,211	100.0	63.8	11.5	24.6
60	22,678	15,931	2,324	4,421	100.0	70.2	10.2	19.5
平成 2年	24,436	18,418	2,125	3,890	100.0	75.4	8.7	15.9
7	25,613	20,348	1,803	3,457	100.0	79.4	7.0	13.5
12	25,729	21,190	1,702	2,834	100.0	82.4	6.6	11.0
17	25,790	21,618	1,646	2,523	100.0	83.8	6.4	9.8

1) 従業上の地位「不詳」を含む。

2) 「役員」を含む。

3) 「家庭内職者」を含む。

従業上の地位別 15 歳以上就業者を年齢階級別にみると、65 歳以上の雇用者数は 252 万人で、平成 12 年と比べると、44 万人 (20.9%) 増となっている。

65 歳以上の雇用者を男女別にみると、男性は 166 万人、女性は 86 万人となっており、平成 12 年と比べると、男性は 24 万人 (16.6%) 増、女性は 20 万人 (30.1%) 増となっている。(表 2-4)

表 2-4 従業上の地位、年齢 (4 区分)、男女別 15 歳以上就業者数
— 全国 (平成 12 年, 平成 17 年)

男女, 年齢	就業者数 (千人)									
	平成 17 年					平成 12 年				
	総数	雇用者	うち 臨時雇	自営業 業主	家族 従業者	総数	雇用者	うち 臨時雇	自営業 業主	家族 従業者
総数	61,513	51,463	7,614	6,914	3,132	62,978	52,281	6,721	7,186	3,507
15～29 歳	11,112	10,711	1,983	178	223	13,944	13,407	2,071	212	325
30～44	19,390	17,630	1,917	1,155	604	18,656	16,691	1,586	1,253	711
45～59	20,724	17,357	2,146	2,388	978	21,592	17,550	1,870	2,845	1,196
60 歳以上	10,287	5,765	1,567	3,193	1,327	8,786	4,633	1,194	2,876	1,275
うち 65 歳以上	5,701	2,518	732	2,239	942	4,891	2,083	579	1,935	872
男	35,723	29,845	2,632	5,268	609	37,249	31,090	2,239	5,484	673
15～29 歳	5,936	5,674	909	111	151	7,626	7,272	908	144	210
30～44	11,498	10,439	403	831	228	11,434	10,293	289	919	221
45～59	11,922	10,010	402	1,815	97	12,695	10,451	322	2,151	93
60 歳以上	6,367	3,724	918	2,511	132	5,494	3,075	719	2,270	149
うち 65 歳以上	3,549	1,655	468	1,778	115	3,083	1,419	383	1,533	130
女	25,790	21,618	4,981	1,646	2,523	25,729	21,190	4,483	1,702	2,834
15～29 歳	5,176	5,038	1,075	66	72	6,318	6,135	1,162	68	115
30～44	7,892	7,192	1,514	324	375	7,222	6,398	1,297	334	490
45～59	8,802	7,347	1,744	574	881	8,897	7,098	1,548	694	1,103
60 歳以上	3,920	2,041	649	682	1,195	3,292	1,559	475	606	1,126
うち 65 歳以上	2,152	863	263	461	827	1,808	663	196	402	742

1) 従業上の地位「不詳」を含む。

2) 「役員」を含む。

3) 「家庭内職者」を含む。

65 歳以上の雇用者を前期高齢者 (65～74 歳) と後期高齢者 (75 歳以上) に分けてみると、前期高齢者は 214 万人と、平成 12 年と比べ 33 万人 (18.2%) 増となっており、後期高齢者は 38 万人と、12 年と比べ 11 万人 (39.1%) 増となっている。

65 歳以上の雇用者は、前期高齢者、後期高齢者共に男性が女性の約 2 倍となっている。(表 2-5)

表 2-5 65 歳以上の年齢 (2 区分)、男女別雇用者数の推移 — 全国 (平成 2 年～17 年)

男女, 年齢	雇用者数 (千人)				雇用者の増減率 (%)		
	平成 2 年	7 年	12 年	17 年	2 年～7 年	7 年～12 年	12 年～17 年
総数	48,607	52,076	52,281	51,463	7.1	0.4	-1.6
うち前期高齢者	1,162	1,693	1,811	2,140	45.7	7.0	18.2
うち後期高齢者	189	235	271	378	24.1	15.7	39.1
男	30,189	31,728	31,090	29,845	5.1	-2.0	-4.0
うち前期高齢者	805	1,188	1,242	1,408	47.5	4.6	13.4
うち後期高齢者	138	163	178	248	18.4	8.9	39.4
女	18,418	20,348	21,190	21,618	10.5	4.1	2.0
うち前期高齢者	357	505	569	732	41.6	12.6	28.7
うち後期高齢者	51	72	94	130	39.6	31.3	38.6

(注) 前期高齢者：65～74 歳
後期高齢者：75 歳以上

表2-6 主要先進国の従業上の地位別15歳以上就業者の割合

国名 (年次)	総数	雇用者	自営業主	家族従業者
日本 (2005)	100.0	83.7	11.2	5.1
ドイツ (2004)	100.0	88.1	10.8	1.1
イタリア (2003)	100.0	72.9	23.1	4.1
イギリス (2004) ¹⁾	100.0	86.9	12.7	0.4
カナダ (2004) ²⁾	100.0	84.6	15.2	0.2
アメリカ合衆国 (2004) ^{1) 2)}	100.0	92.4	7.5	0.1

資料：ILO, *Yearbook of Labour Statistics*, 2004年版による。
ただし、日本は国勢調査の結果による。

1) 16歳以上。 2) 軍人を除く。

(注) フランスについては、必要なデータが公表されていないため掲載していない。

表2-7 従業上の地位別15歳以上就業者数 - 都道府県 (平成17年)

都道府県	就業者数 (千人)					割合 (%)				
	総数 1)	雇用者 2)	うち臨時雇	自営業主 3)	家族 従業者	総数 1)	雇用者 2)	うち臨時雇	自営業主 3)	家族 従業者
全 国	61,513	51,463	7,614	6,314	3,132	100.0	83.7	12.4	11.2	5.1
北海道	2,609	2,215	380	250	144	100.0	84.9	14.6	9.6	5.5
青森県	695	531	84	94	70	100.0	76.4	12.1	13.5	10.1
岩手県	679	518	83	98	63	100.0	76.3	12.3	14.4	9.3
宮城県	1,105	927	131	118	60	100.0	83.9	11.8	10.7	5.4
秋田県	543	421	73	79	43	100.0	77.4	13.5	14.6	8.0
山形県	614	475	64	86	54	100.0	77.3	10.5	14.0	8.7
福島県	1,016	809	105	131	76	100.0	79.6	10.4	12.9	7.5
茨城県	1,476	1,198	169	174	104	100.0	81.2	11.5	11.8	7.0
栃木県	1,011	829	112	120	63	100.0	82.0	11.0	11.8	6.2
群馬県	1,012	827	125	126	59	100.0	81.7	12.4	12.4	5.8
埼玉県	3,505	3,080	457	308	116	100.0	87.9	13.0	8.8	3.3
千葉県	2,965	2,582	387	259	123	100.0	87.1	13.1	8.7	4.2
東京都	5,939	5,150	766	607	182	100.0	86.7	12.9	10.2	3.1
神奈川県	4,261	3,832	567	327	102	100.0	89.9	13.3	7.7	2.4
新潟県	1,235	1,004	139	150	80	100.0	81.3	11.3	12.2	6.5
富山県	581	486	61	65	29	100.0	83.7	10.4	11.2	5.0
石川県	599	497	69	71	31	100.0	83.0	11.6	11.9	5.1
福井県	426	348	43	54	23	100.0	81.9	10.0	12.6	5.5
福山県	435	336	50	65	35	100.0	77.2	11.4	14.9	7.9
長野県	1,162	894	142	171	96	100.0	77.0	12.2	14.7	8.3
岐阜県	1,065	867	117	133	64	100.0	81.5	11.0	12.5	6.0
静岡県	1,975	1,637	216	227	111	100.0	82.9	10.9	11.5	5.6
愛知県	3,696	3,176	452	356	164	100.0	85.9	12.2	9.6	4.4
三重県	916	763	117	105	48	100.0	83.3	12.7	11.4	5.2
滋賀県	680	580	94	73	26	100.0	85.4	13.9	10.7	3.9
京都府	1,252	1,031	167	156	64	100.0	82.4	13.4	12.5	5.2
大阪府	3,977	3,373	492	448	156	100.0	84.8	12.4	11.3	3.9
兵庫県	2,531	2,151	330	277	103	100.0	85.0	13.1	10.9	4.1
奈良県	636	525	74	77	33	100.0	82.6	11.7	12.1	5.3
和歌山県	476	349	55	83	43	100.0	73.4	11.6	17.5	9.0
鳥取県	310	242	37	46	22	100.0	77.9	11.9	14.9	7.2
島根県	375	298	47	53	24	100.0	79.4	12.6	14.1	6.5
岡山県	930	767	100	112	50	100.0	82.5	10.7	12.1	5.4
広島県	1,422	1,206	167	155	61	100.0	84.8	11.7	10.9	4.3
山口県	718	586	84	93	39	100.0	81.6	11.7	12.9	5.5
徳島県	377	293	41	55	30	100.0	77.5	10.9	14.6	7.9
香川県	490	406	52	60	24	100.0	82.9	10.6	12.3	4.8
愛媛県	673	530	78	96	47	100.0	78.8	11.6	14.3	6.9
高知県	373	275	46	64	34	100.0	73.6	12.3	17.2	9.2
福岡県	2,299	1,923	284	263	113	100.0	83.7	12.4	11.4	4.9
佐賀県	419	329	51	57	33	100.0	78.5	12.2	13.6	7.8
長崎県	692	545	82	95	53	100.0	78.7	11.8	13.7	7.6
熊本県	874	678	99	118	78	100.0	77.6	11.3	13.5	8.9
大分県	579	468	67	77	34	100.0	80.8	11.6	13.3	5.8
宮崎県	555	431	66	81	43	100.0	77.6	12.0	14.6	7.8
鹿児島県	803	622	98	123	58	100.0	77.4	12.2	15.4	7.2
沖縄県	553	452	91	78	24	100.0	81.7	16.4	14.0	4.3

1) 従業上の地位「不詳」を含む。

2) 「役員」を含む。

3) 「家庭内職者」を含む。

我が国の65歳以上男性の労働力率は、主要先進国に比べ特に高くなっている。
(表2-8)

表2-8 主要先進国の年齢階級、男女別65歳以上労働力率

国名 (年次)	総数						男			女		
	65歳以上						65歳以上			65歳以上		
	65~69歳	70~74歳	75歳以上									
日本 (2005)	22.2	37.5	24.6	11.1	33.1	50.2	33.8	18.6	14.2	26.0	16.7	6.7
フランス (2004)	1.2	3.3	1.0	0.3	1.8	4.1	1.4	0.4	0.9	2.5	0.7	0.2
ドイツ (2004)	2.9	5.6	2.5	0.8	4.3	7.2	3.7	1.5	1.8	4.1	1.5	0.5
イタリア (2003)	3.4	6.7	3.0	1.4	5.9	10.9	5.0	2.3	1.6	3.1	1.5	0.8
カナダ (2004)	7.7	-	-	-	11.8	-	-	-	4.5	-	-	-
アメリカ合衆国 (2004)	14.4	27.7	15.3	6.1	19.0	32.6	19.4	9.0	11.1	23.3	12.0	4.3

資料：ILO, *Yearbook of Labour Statistics*, 2004年版による。ただし、日本は国勢調査の結果による。
(注)イギリスについては、必要なデータが公表されていないため掲載していない。

3 臨時雇の雇用者数が増加

～臨時雇の雇用者数は第3次産業の割合が大きい～

15歳以上就業者数(6151万人)が平成12年に比べ147万人(2.3%)減少する中で、臨時雇の雇用者数(761万人)は89万人(13.3%)増加している。

臨時雇の雇用者数を男女別にみると、男性(263万人)が平成12年に比べ39万人(17.6%)増、女性(498万人)が50万人(11.1%)増となっている。(表2-9)

表2-9 従業上の地位別15歳以上就業者数 - 全国(平成12年, 17年)

男女, 年次	就業者数 (千人)					割合 (%)				
	総数 1)	雇用者 2)	うち 臨時雇	自営業 主 3)	家族 従業者	総数 1)	雇用者 2)	うち 臨時雇	自営業 主 3)	家族 従業者
総数										
平成12年	62,978	52,281	6,721	7,186	3,507	100.0	83.0	10.7	11.4	5.6
17年	61,513	51,463	7,614	6,914	3,132	100.0	83.7	12.4	11.2	5.1
男										
平成12年	37,249	31,090	2,239	5,484	673	100.0	83.5	6.0	14.7	1.8
17年	35,723	29,845	2,632	5,268	609	100.0	83.5	7.4	14.7	1.7
女										
平成12年	25,729	21,190	4,483	1,702	2,834	100.0	82.4	17.4	6.6	11.0
17年	25,790	21,618	4,981	1,646	2,523	100.0	83.8	19.3	6.4	9.8

1) 従業上の地位「不詳」を含む。

2) 「役員」を含む。

3) 「家庭内職者」を含む。

臨時雇の雇用者について産業大分類別の割合をみると、「卸売・小売業」が20.1%と最も高く、次いで「サービス業(他に分類されないもの)」が17.9%、「医療、福祉」が12.4%などとなっており、第3次産業^(注)に含まれる産業の割合が大きくなっている。(表2-10)

(注) 第3次産業とは、産業大分類が「農業」、「林業」、「漁業」、「鉱業」、「建設業」及び「製造業」以外の産業をいう。

表2-10 産業(大分類), 従業上の地位別15歳以上就業者数 - 全国(平成17年)

産業大分類	就業者数(千人)				産業別割合(%)				従業上の地位別割合(%)			
	総数	雇用者	うち 臨時雇	自 業主・ 家族 従業者	総数	雇用者	うち 臨時雇	自 業主・ 家族 従業者	総数	雇用者	うち 臨時雇	自 業主・ 家族 従業者
	1)	2)			1)	2)			1)	2)		
総数 ³⁾	61,513	51,463	7,614	10,046	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	83.7	12.4	16.3
A 農業	2,887	314	101	2,573	4.7	0.6	1.3	25.6	100.0	10.9	3.5	89.1
B 林業	52	36	7	16	0.1	0.1	0.1	0.2	100.0	69.2	13.7	30.6
C 漁業	212	68	11	145	0.3	0.1	0.1	1.4	100.0	31.8	5.2	68.2
D 鉱業	32	31	2	1	0.1	0.1	0.0	0.0	100.0	97.2	7.5	2.5
E 建設業	5,433	4,307	359	1,126	8.8	8.4	4.7	11.2	100.0	79.3	6.6	20.7
F 製造業	10,460	9,644	858	816	17.0	18.7	11.3	8.1	100.0	92.2	8.2	7.8
G 電気・ガス・熱供給・水道業	308	308	16	0	0.5	0.6	0.2	0.0	100.0	100.0	5.1	0.0
H 情報通信業	1,662	1,590	118	72	2.7	3.1	1.6	0.7	100.0	95.6	7.1	4.3
I 運輸業	3,104	2,923	312	181	5.0	5.7	4.1	1.8	100.0	94.2	10.1	5.8
J 卸売・小売業	11,105	9,548	1,531	1,557	18.1	18.6	20.1	15.5	100.0	86.0	13.8	14.0
K 金融・保険業	1,493	1,424	125	69	2.4	2.8	1.6	0.7	100.0	95.4	8.3	4.6
L 不動産業	892	686	64	206	1.4	1.3	0.8	2.1	100.0	76.9	7.2	23.1
M 飲食店, 宿泊業	3,281	2,417	699	864	5.3	4.7	9.2	8.6	100.0	73.7	21.3	26.3
N 医療, 福祉	5,318	4,955	941	362	8.6	9.6	12.4	3.6	100.0	93.2	17.7	6.8
O 教育, 学習支援業	2,704	2,437	497	267	4.4	4.7	6.5	2.7	100.0	90.1	18.4	9.9
P 複合サービス事業	696	692	138	4	1.1	1.3	1.8	0.0	100.0	99.4	19.9	0.6
Q サービス業(他に分類されないもの)	8,751	7,088	1,364	1,663	14.2	13.8	17.9	16.6	100.0	81.0	15.6	19.0
R 公務(他に分類されないもの)	2,067	2,067	266	0	3.4	4.0	3.9	0.0	100.0	100.0	14.3	0.0
男 ³⁾	35,723	29,845	2,652	5,876	58.1	58.0	34.6	58.5	100.0	83.5	7.4	16.4
A 農業	1,610	161	57	1,450	2.6	0.3	0.5	14.4	100.0	10.0	2.3	90.0
B 林業	44	32	6	12	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0	72.2	13.0	28.0
C 漁業	160	54	7	107	0.3	0.1	0.1	1.1	100.0	33.4	4.3	66.6
D 鉱業	27	27	2	1	0.0	0.1	0.0	0.0	100.0	98.2	6.6	2.2
E 建設業	4,640	3,656	300	984	7.5	7.1	3.9	9.8	100.0	78.8	6.5	21.2
F 製造業	7,048	6,615	366	434	11.5	12.9	4.8	4.3	100.0	93.8	5.2	6.2
G 電気・ガス・熱供給・水道業	270	270	7	0	0.4	0.5	0.1	0.0	100.0	100.0	2.6	0.0
H 情報通信業	1,211	1,157	45	54	2.0	2.2	0.6	0.5	100.0	95.5	3.7	4.5
I 運輸業	2,575	2,415	195	159	4.2	4.7	2.6	1.6	100.0	93.8	7.6	6.2
J 卸売・小売業	5,540	4,708	415	832	9.0	9.1	5.4	8.3	100.0	85.0	7.5	15.0
K 金融・保険業	720	674	15	46	1.2	1.3	0.2	0.5	100.0	93.6	2.0	6.4
L 不動産業	543	426	36	117	0.9	0.8	0.5	1.2	100.0	78.5	6.5	21.5
M 飲食店, 宿泊業	1,322	945	192	377	2.1	1.8	2.5	3.8	100.0	71.5	14.5	28.5
N 医療, 福祉	1,242	1,020	104	222	2.0	2.0	1.4	2.2	100.0	82.1	8.4	17.9
O 教育, 学習支援業	1,223	1,157	163	66	2.0	2.2	2.1	0.7	100.0	94.6	13.3	5.4
P 複合サービス事業	454	452	54	2	0.7	0.9	0.7	0.0	100.0	99.5	11.9	0.5
Q サービス業(他に分類されないもの)	4,901	3,967	516	934	8.0	7.7	6.8	9.3	100.0	80.9	10.5	19.1
R 公務(他に分類されないもの)	1,556	1,556	96	0	2.5	3.0	1.3	0.0	100.0	100.0	6.2	0.0
女 ³⁾	25,790	21,618	4,981	4,170	41.9	42.0	65.4	41.5	100.0	83.8	19.3	16.2
A 農業	1,277	153	64	1,124	2.1	0.3	0.8	11.2	100.0	12.0	5.0	88.0
B 林業	8	4	1	4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	55.0	17.5	45.0
C 漁業	52	14	4	38	0.1	0.0	0.1	0.4	100.0	27.0	8.0	73.0
D 鉱業	5	5	1	0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	97.8	13.0	4.3
E 建設業	793	651	60	143	1.3	1.3	0.8	1.4	100.0	82.0	7.5	18.0
F 製造業	3,412	3,030	491	382	5.5	5.9	6.5	3.8	100.0	88.8	14.4	11.2
G 電気・ガス・熱供給・水道業	38	38	9	0	0.1	0.1	0.1	0.0	100.0	100.0	22.5	0.0
H 情報通信業	451	433	73	18	0.7	0.8	1.0	0.2	100.0	95.9	16.2	4.0
I 運輸業	529	507	117	22	0.9	1.0	1.5	0.2	100.0	95.9	22.1	4.1
J 卸売・小売業	5,565	4,840	1,117	725	9.0	9.4	14.7	7.2	100.0	87.0	20.1	13.0
K 金融・保険業	773	749	110	23	1.3	1.5	1.4	0.2	100.0	97.0	14.3	3.0
L 不動産業	349	260	29	89	0.6	0.5	0.4	0.9	100.0	74.4	8.2	25.6
M 飲食店, 宿泊業	1,959	1,472	506	487	3.2	2.9	6.7	4.8	100.0	75.1	25.8	24.9
N 医療, 福祉	4,075	3,935	836	140	6.6	7.6	11.0	1.4	100.0	96.6	20.5	3.4
O 教育, 学習支援業	1,481	1,280	334	202	2.4	2.5	4.4	2.0	100.0	86.4	22.6	13.6
P 複合サービス事業	242	240	84	2	0.4	0.5	1.1	0.0	100.0	99.3	34.8	0.7
Q サービス業(他に分類されないもの)	3,850	3,121	848	729	6.3	6.1	11.1	7.3	100.0	81.1	22.0	18.9
R 公務(他に分類されないもの)	511	511	200	0	0.8	1.0	2.6	0.0	100.0	100.0	39.2	0.0

1) 従業上の地位「不詳」を含む。 2) 「役員」を含む。 3) 「分類不能の産業」を含む。

4 平均週間就業時間は41.2時間に減少

～産業別の就業時間は男性で「運輸業」、女性で「情報通信業」が最も長い～

15歳以上就業者の平均週間就業時間は41.2時間で、平成12年の42.4時間に比べ1.2時間減少している。男性は45.7時間、女性は34.9時間となっており、男性が女性を10.8時間上回っている。(表2-11)

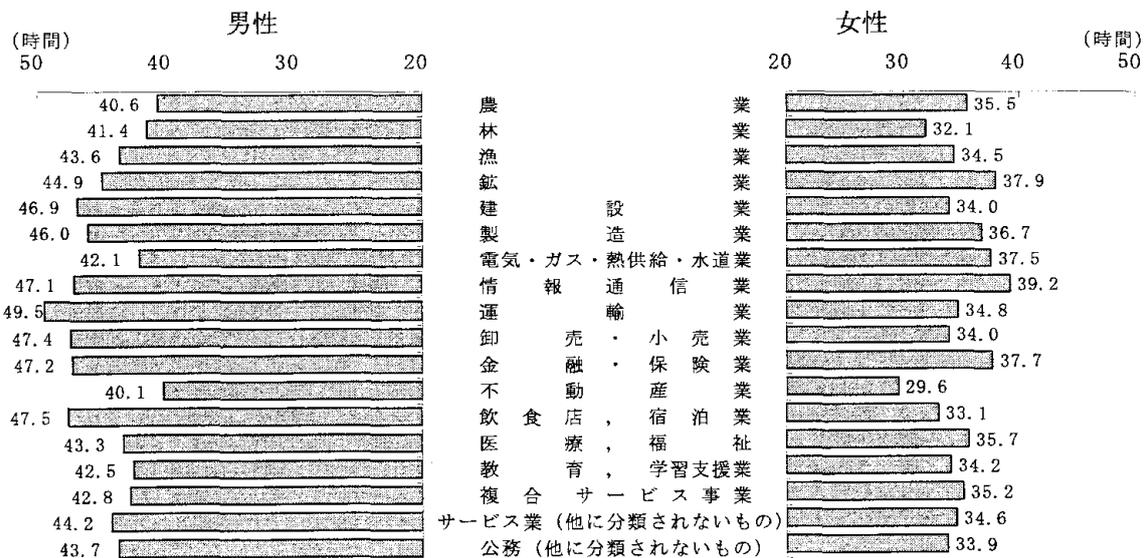
表2-11 従業上の地位，男女別15歳以上就業者の平均週間就業時間
— 全国 (平成12年，17年)

年次	(時間)														
	総数 1)	雇用者			役員	男	雇用者			役員	女	雇用者			役員
		常雇	臨時雇	役員		1)	常雇	臨時雇	役員		1)	常雇	臨時雇	役員	
平成12年	42.4	42.4	44.5	28.6	45.7	46.7	46.8	47.9	33.0	48.2	36.3	36.1	38.9	26.4	37.8
平成17年	41.2	41.1	43.6	28.3	44.4	45.7	45.9	47.4	32.4	47.0	34.9	34.9	37.7	26.1	36.0

1) 「自営業主」，「家族従業者」，「家庭内職者」及び従業上の地位「不詳」を含む。

男女別の平均週間就業時間を産業大分類別にみると、男性は「運輸業」が49.5時間と最も長く、次いで「飲食店、宿泊業」が47.5時間、「卸売・小売業」が47.4時間などとなっている。女性は「情報通信業」が39.2時間と最も長く、次いで「鉱業」が37.9時間、「金融・保険業」が37.7時間などとなっている。(図2-3)

図2-3 産業(大分類)，男女別15歳以上就業者の平均就業時間 — 全国 (平成17年)



5 都道府県外からの通勤・通学者数が多いのは東京都、大阪府、愛知県
～このうち愛知県への通勤・通学者数が減少から再び増加に～

昼間人口^(注)を都道府県別にみると、東京都が1507万人で最も多く、次いで大阪府が927万人、神奈川県が792万人、愛知県が737万人などとなっている。

また、昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）をみると、東京都が120.3で最も高く、次いで大阪府が105.4、愛知県が101.8などとなっており、これら三大都市圏の中心部を含め17都府県で昼間人口が夜間人口を上回っている。

一方、昼夜間人口比率の低い県をみると、埼玉県が87.8で最も低く、次いで奈良県が88.4、千葉県が88.5などとなっており、上記都市圏の周辺部を構成する県で低くなっている。

昼夜間人口比率が高い東京都、大阪府及び愛知県について都府県外からの通勤・通学者数（流入人口）をみると、東京都への流入人口は301万人で、平成12年と比べると3.4%減、大阪府への流入人口は73万人で6.2%減となっているが、愛知県への流入人口は20万人で6.7%増となっている。これら3都府県への他県からの流入人口の推移をみると、平成12年は3都府県とも減少していたが、17年は愛知県が再び増加になっている。（表2-12、2-13）

（注）昼間人口（従業地・通学地による人口）は、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口をいう。

〔例：A県の昼間人口の算出方法〕

A県の昼間人口 = A県の夜間人口 - A県から他県への通勤・通学者数（流出人口）
+ A県への他県からの通勤・通学者数（流入人口）

なお、夜間人口（常住地による人口）は、調査時に調査の地域に常住している人口をいう。

表2-12 昼間人口及び昼夜間人口比率 - 都道府県 (平成12年, 17年)

都道府県	昼間人口 (千人)		昼夜間人口比率		都道府県	昼間人口 (千人)		昼夜間人口比率	
	平成17年	平成12年	平成17年	平成12年		平成17年	平成12年	平成17年	平成12年
全 国	127,592	126,697	100.0	100.0					
北海道	5,624	5,655	100.0	100.0	京 都 府	2,674	2,643	101.1	100.5
青森県	1,435	1,476	99.9	100.1	大 阪 府	9,273	9,308	105.4	105.9
岩手県	1,377	1,411	99.6	99.7	兵 庫 県	5,316	5,276	95.2	95.1
宮城県	2,366	2,366	100.3	100.1	奈 良 県	1,256	1,262	88.4	87.6
秋田県	1,143	1,187	99.8	99.9	和 歌 山 県	1,013	1,046	97.8	97.8
山形県	1,216	1,243	100.1	99.9	鳥 取 県	610	614	100.4	100.2
福島県	2,083	2,122	99.6	99.8	島 根 県	737	760	99.5	99.9
茨城県	2,883	2,892	97.0	96.9	岡 山 県	1,952	1,949	99.9	99.9
栃木県	2,008	1,993	99.6	99.4	広 島 県	2,884	2,886	100.3	100.3
群馬県	2,019	2,018	99.8	99.9	山 口 県	1,484	1,518	99.5	99.4
埼玉県	6,191	5,985	87.8	86.4	徳 島 県	807	822	99.7	99.8
千葉県	5,353	5,182	88.5	87.6	香 川 県	1,013	1,025	100.0	100.2
東京都	15,066	14,667	120.3	122.0	愛 媛 県	1,469	1,494	100.1	100.1
神奈川県	7,919	7,634	90.3	90.1	高 知 県	795	812	99.9	99.9
新潟県	2,430	2,474	100.1	100.0	福 岡 県	5,044	5,014	100.1	100.2
富山県	1,106	1,117	99.5	99.7	佐 賀 県	867	873	100.1	99.6
石川県	1,176	1,180	100.2	100.3	長 崎 県	1,474	1,513	99.7	99.8
福井県	822	831	100.2	100.3	熊 本 県	1,837	1,851	99.8	99.6
山梨県	876	881	99.0	99.2	大 分 県	1,210	1,220	100.2	100.0
長野県	2,195	2,215	100.0	100.0	宮 崎 県	1,150	1,169	99.8	100.0
岐阜県	2,025	2,026	96.1	96.1	鹿 児 島 県	1,754	1,784	100.1	99.9
静岡県	3,787	3,763	99.9	99.9	沖 縄 県	1,360	1,309	100.0	100.0
愛知県	7,369	7,131	101.8	101.6					
三重県	1,818	1,811	97.4	97.6					
滋賀県	1,328	1,290	96.2	96.1					

(注) 昼間人口, 夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

表2-13 東京都, 大阪府, 愛知県への流入人口の推移 - (平成7年~17年)

	流 入 人 口 (千人)			割 合 (%)			増 減 率 (%)	
	平成7年	12年	17年	平成7年	12年	17年	平成7年 ~12年	12年 ~17年
東京都への流入人口	3,324	3,120	3,014	100.0	100.0	100.0	-6.2	-3.4
うち 神奈川県 から	1,117	1,074	1,079	33.6	34.4	35.8	-3.9	0.5
埼玉県	1,151	1,065	992	34.6	34.1	32.9	-7.4	-6.9
千葉県	888	822	782	26.7	26.4	25.9	-7.4	-4.9
茨城県	86	79	66	2.6	2.5	2.2	-7.6	-17.1
大阪府への流入人口	822	778	730	100.0	100.0	100.0	-5.4	-6.2
うち 兵庫県 から	382	374	358	46.4	48.1	49.1	-2.0	-4.2
奈良県	228	205	183	27.7	26.4	25.0	-9.9	-11.1
京都府	119	112	102	14.4	14.3	14.0	-6.0	-8.5
和歌山県	39	36	34	4.7	4.6	4.7	-8.1	-3.8
滋賀県	26	25	25	3.1	3.2	3.5	-3.4	1.6
愛知県への流入人口	194	191	204	100.0	100.0	100.0	-1.5	6.7
うち 岐阜県 から	122	121	123	62.6	63.4	60.3	-0.3	1.4
三重県	50	46	52	25.8	24.3	25.2	-7.4	10.9
静岡県	11	11	12	5.6	5.6	5.8	-1.4	9.7

Ⅲ 変化する産業・職業構造

1 第3次産業の就業者数は引き続き増加

15歳以上就業者数(6151万人)を産業3部門^(注)別にみると、第1次産業は315万人(15歳以上就業者数の5.1%)、第2次産業は1592万人(同25.9%)、第3次産業は4138万人(同67.3%)となっている。

産業3部門別に15歳以上就業者数の推移をみると、第3次産業は調査開始以来増加が続いている。一方、第1次産業は昭和30年以降、第2次産業は平成7年以降、それぞれ減少が続いている。(表3-1、図3-1)

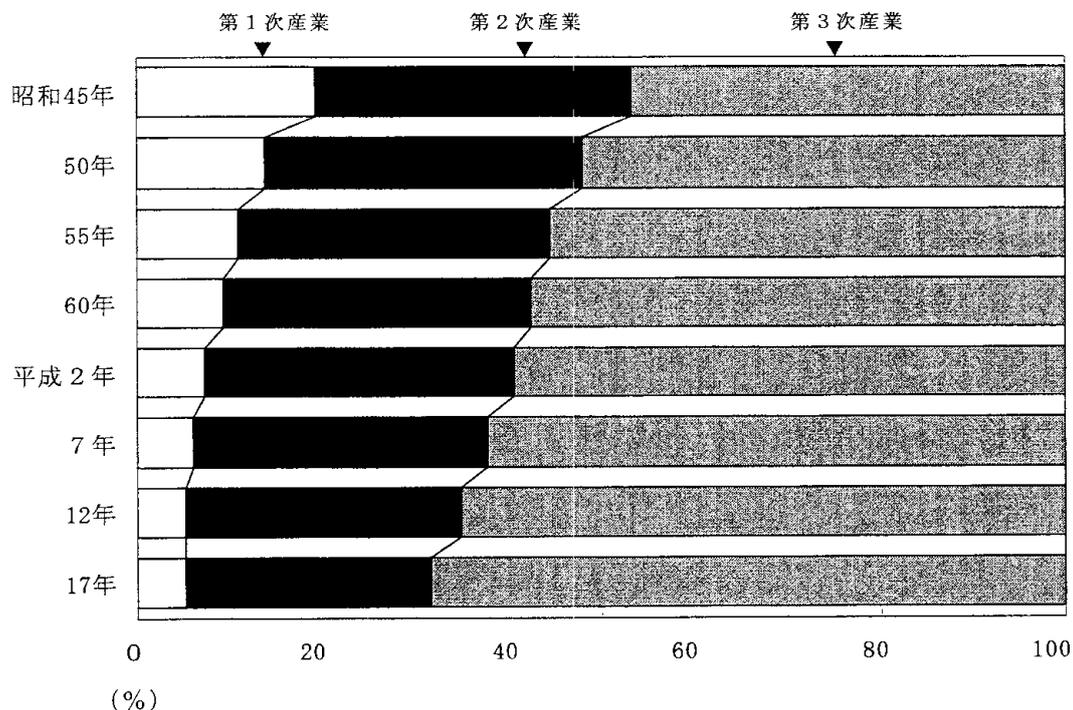
(注) 産業3部門に含まれる産業大分類は次のとおり(第1次産業:「農業」、「林業」、「漁業」、第2次産業:「鉱業」、「建設業」、「製造業」、第3次産業:前記以外の産業)

表3-1 産業(3部門)別15歳以上就業者数の推移 - 全国(大正9年~平成17年)

年次	就業者数(千人)				割合(%)			
	総数 ¹⁾	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数 ¹⁾	第1次産業	第2次産業	第3次産業
大正9年 ²⁾	27,261	14,672	5,598	6,464	100.0	53.8	20.5	23.7
昭和5年 ²⁾	29,620	14,711	6,002	8,836	100.0	49.7	20.3	29.8
15年 ³⁾	32,483	14,392	8,443	9,429	100.0	44.3	26.0	29.0
25年 ⁴⁾	36,025	17,478	7,838	10,671	100.0	48.5	21.8	29.6
30年 ⁵⁾	39,590	16,291	9,247	14,051	100.0	41.1	23.4	35.5
35年	44,042	14,389	12,804	16,841	100.0	32.7	29.1	38.2
40年	47,960	11,857	15,115	20,969	100.0	24.7	31.5	43.7
45年	52,593	10,146	17,897	24,511	100.0	19.3	34.0	46.6
50年	53,141	7,347	18,106	27,521	100.0	13.8	34.1	51.8
55年	55,811	6,102	18,737	30,911	100.0	10.9	33.6	55.4
60年	58,357	5,412	19,334	33,444	100.0	9.3	33.1	57.3
平成2年	61,682	4,391	20,548	36,421	100.0	7.1	33.3	59.0
7年	64,142	3,820	20,247	39,642	100.0	6.0	31.6	61.8
12年	62,978	3,173	18,571	40,485	100.0	5.0	29.5	64.3
17年	61,513	3,151	15,925	41,380	100.0	5.1	25.9	67.3

- 1) 「分類不能の産業」を含む。
- 2) 全年齢の有業者数。
- 3) 全年齢の有業者数。軍人・軍属及び一部の外国人を除く。
- 4) 14歳以上就業者数。沖縄県の本土籍日本人及び外国人を除く。
- 5) 沖縄県は14歳以上就業者数。

図3-1 産業（3部門）別15歳以上就業者の割合の推移 — 全国（昭和45年～平成17年）



主要先進国の15歳以上就業者数について産業3部門別の割合をみると、我が国を含む各国共に第3次産業の割合が高く、ほぼ同様の傾向を示している。（表3-2）

表3-2 主要先進国の産業（3部門）別15歳以上就業者の割合

国名	(年次)	総数	第1次産業 (%)	第2次産業 (%)	第3次産業 (%)
日本	(2005) 1)	100.0	5.1	25.9	67.3
フランス	(2004)	100.0	4.0	23.7	71.9
ドイツ	(2004)	100.0	2.3	30.0	67.7
イタリア	(2003)	100.0	4.9	31.0	64.2
イギリス	(2004) 1)2)	100.0	1.3	21.5	76.9
カナダ	(2004) 3)	100.0	2.6	21.5	75.9
アメリカ合衆国	(2004) 2)3)4)	100.0	1.6	20.0	78.4

資料：ILO, *Yearbook of Labour Statistics*, 2004年版による。ただし、日本は国勢調査の結果による。

- 1) 「分類不能の産業」を含む。
- 2) 16歳以上就業者数。
- 3) 軍人を除く。
- 4) 「分類不能の産業」は第3次産業を含む。

2 就業者数が最も多い産業は「卸売・小売業」

15歳以上就業者数を産業大分類別にみると、「卸売・小売業」が1110万人（15歳以上就業者数の18.1%）と最も多く、次いで「製造業」が1046万人（同17.0%）、「サービス業（他に分類されないもの）」が875万人（同14.2%）などとなっている。

平成12年と比べると、「医療、福祉」が104万人（24.4%）増と最も増加しており、次いで「サービス業（他に分類されないもの）」が69万人（8.5%）増、「不動産業」が8万人（10.2%）増、「情報通信業」が8万人（5.2%）増、「教育、学習支援業」が6万人（2.4%）増とこれら5業種のみが増加となっている。一方、「製造業」が154万人（12.8%）減と最も減少しており、次いで「建設業」が91万人（14.4%）減、「卸売・小売業」が60万人（5.1%）減などとなっている。（表3-3、図3-2）

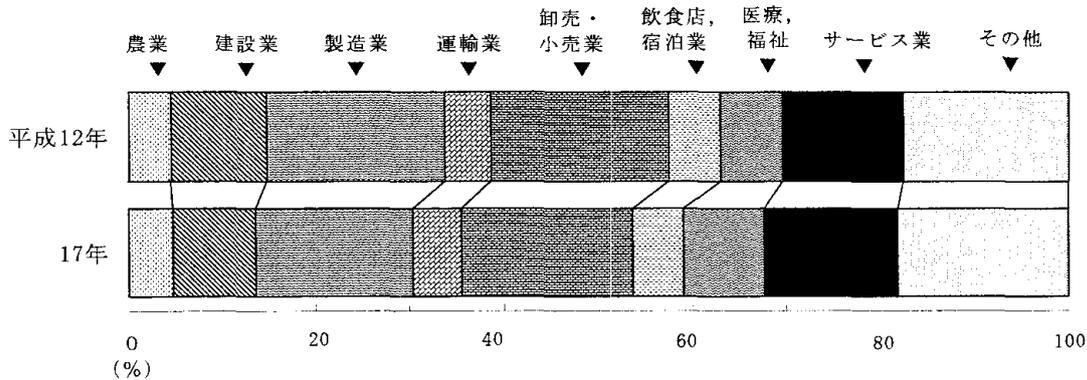
表3-3 産業（大分類）別15歳以上就業者数及び増減数－全国（平成12年、17年）

産 業 大 分 類	就 業 者 数		産 業 別 割 合		増減数	増減率
	(千人)		(%)		(千人)	(%)
	平成17年	12年	平成17年	12年	12年～17年	12年～17年
総 数 1)	61,513	63,032	100.0	100.0	-1,520	-2.4
A 農 業	2,887	2,891	4.7	4.6	-4	-0.1
B 林 業	52	64	0.1	0.1	-12	-18.8
C 漁 業	212	253	0.3	0.4	-41	-16.2
D 鉱 業	32	46	0.1	0.1	-15	-31.5
E 建 設	5,433	6,346	8.8	10.1	-913	-14.4
F 製 造 業	10,460	11,999	17.0	19.0	-1,539	-12.8
G 電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	308	338	0.5	0.5	-30	-8.8
H 情 報 通 信 業	1,662	1,579	2.7	2.5	83	5.2
I 運 輸 業	3,104	3,179	5.0	5.0	-76	-2.4
J 卸 売 ・ 小 売 業	11,105	11,700	18.1	18.6	-595	-5.1
K 金 融 ・ 保 険 業	1,493	1,751	2.4	2.8	-258	-14.8
L 不 動 産 業	892	809	1.4	1.3	83	10.2
M 飲 食 店 , 宿 泊 業	3,281	3,489	5.3	5.5	-208	-6.0
N 医 療 , 福 祉 社 会 業	5,318	4,274	8.6	6.8	1,044	24.4
O 教 育 , 学 習 支 援 業	2,704	2,640	4.4	4.2	64	2.4
P 複 合 サ ー ビ ス 事 業	696	707	1.1	1.1	-11	-1.5
Q サービス業（他に分類されないもの）	8,751	8,062	14.2	12.8	689	8.5
R 公 務（他に分類されないもの）	2,067	2,143	3.4	3.4	-76	-3.5

1) 「分類不能の産業」を含む。

(注) 平成12年は、日本標準産業分類第11回改訂(平成14年3月)に伴う組替集計結果による。

図3-2 産業（大分類）別15歳以上就業者数の割合 — 全国（平成12年，17年）



(注1) 「その他」に含まれるのは、「林業」、「漁業」、「鉱業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「金融・保険業」、「不動産業」、「教育・学習支援業」、「複合サービス業」、「公務（他に分類されないもの）」及び「分類不能の産業」である。
 (注2) 平成12年は、日本標準産業分類第11回改訂（平成14年3月）に伴う組替集計結果による。

**3 「労働者派遣業」の就業者数は2倍を超える増加
 医療・福祉分野では就業者数の増加率が大きい業種が多い**

15歳以上就業者の平成12年～17年の増加率を産業小分類^(注)（就業者数10万人以上）別にみると、「労働者派遣業」が131.1%増と2倍を超える増加となっている。
 また、訪問介護事業などの「その他の社会保険・社会福祉・介護事業」が99.7%増、「老人福祉・介護事業（訪問介護事業を除く）」が92.7%増、「障害者福祉事業」が51.3%増などとなっており、産業大分類の「医療，福祉」を構成する業種が上位20位のうち7つを占めている。（表3-4）

(注) 日本標準産業分類の420の小分類を国勢調査集計用として228区分に再編成した。

表3-4 就業者数の増加率が大きい産業小分類上位20位
 — 全国（平成17年）

順位	産業小分類	就業者数 (千人)		増加率 (%)	順位	産業小分類	就業者数 (千人)		増加率 (%)
		平成17年	12年				平成17年	12年	
1	労働者派遣業	852	368	131.1	11	情報処理・提供サービス業	238	200	18.6
2	その他の社会保険・社会福祉・介護事業	439	220	99.7	12	不動産賃貸業・管理業（別掲を除く）	383	324	18.4
3	老人福祉・介護事業（訪問介護事業を除く）	926	481	92.7	13	その他の織物・衣服・身の回り品小売業	131	111	18.0
4	障害者福祉事業	183	121	51.3	14	医薬品・化粧品小売業	474	402	17.7
5	再生资源卸売業	106	77	37.4	15	倉庫業	172	147	16.4
6	宗教	227	180	26.3	16	一般診療所	693	599	15.7
7	療養業	181	145	24.4	17	警備業	321	280	14.4
8	児童福祉事業	629	517	21.6	18	各種食品小売業	1,007	894	12.6
9	他に分類されない事業サービス業	936	786	19.0	19	歯科診療所	332	298	11.4
10	学習塾	204	172	18.8	20	船舶製造・修理業，船用機関製造業	104	93	11.1

(注1) 平成17年の就業者数が10万人未満の産業小分類を除く。
 (注2) 太字は、「医療，福祉」に含まれる産業小分類である。
 (注3) 平成12年の就業者数は、日本標準産業分類第11回改訂（平成14年3月）に伴う組替集計結果による。